

熊高
同窓会だより

編集発行
熊谷高等学校同窓会
熊谷市大原1-9-1
TEL 048(521)0050
FAX 048(520)1057
事務局直通
TEL・FAX 048(528)2333

熊高森づくりの会
発足10周年

～記念植樹祭

10月29日(日)宝登山にて～



予告

平成二十九年熊谷高校同窓会総会並びに講演会、懇親会のご案内

記

一、日時 平成三十年三月十日(土) 午後一時三十分～

一、会場 熊谷高校内「くぬぎ会館」

一、講演会

○講師 塩原克幸氏(高校47回卒)

○演題

県民生活部ラグビーワールドカップ2019推進室「ラグビーワールドカップ埼玉(熊谷)開催に向けて」詳細は後日お知らせしますが、皆様方の参加をお待ちしております。



各支部会活動の活況

熊谷高校同窓会 会長 高18回卒 染谷 政示

熊谷探偵団代表の元埼玉県教育局管理部長「米山実」氏(十二回卒)に講師をお願いして「坊っちゃん」と「田舎教師」のモデルについて、お話をさせていただきました。

今年度の同窓会の事業は三月十一日の熊谷高等学校同窓会総会から始まり、午後から総会、講演会、続いて懇親会と緊張のなかにも和やかな会談を持たせていただきました。講演会では、

特に母校との関係には興味あるものが、沢山ありました。同窓会としても、何らかの形ある物を残しておきたいと考えております。

今年度の各支部総会は、五月二十日の渋谷支部長本庄支部の総会を皮切りに、吉田支部長の北本支部、まだできて間もない支部です。小川支部長の行田支部、田代支部長の熊谷支部と続きました。今年の支部会の

「熊高に着任して」

校長 武内 道郎



年目となる鈴木教頭とともに、新体制でスタートです。よろしくお願ひします。

同窓生の皆様、第三十八代校長を拝命しました武内でございます。春山校長が定年退職され、後任として着任しました。管理職は関根教頭、大島事務部長が異動され、相模教頭、塚田事務部長が着任しました。三

高OBでない私にとって、毎日が驚くことばかりです。OBである鈴木教頭、相模教頭(両名は同級生です)にいろいろと教わりながら楽しく過ごしております。入学して間もなくの新入生への校歌指導では、上

級生の厳しい指導もあり、校歌を覚えさせます。石坂養平作詞、山田耕作作曲による名曲ですが、私も間もなく覚えることができました。四キロハイクでも、文化祭でも、熊高生はとにかくよく校歌を歌います。一年生の夏の臨海学校でも、遠泳のゴール地点で、疲れて泳ぐ仲間達を校歌で出迎えていました。こうした経験

が、愛校心を育んできたのだと思います。伝統校の良さを実感しております。今、教育界では、教育改革の大きな動きがあり、大学入試センター試験、学習指導要領など二十年に一度の大改革が行われようとしています。これまでの知識・技能の着実な習得に加え、思考力・判断力・表現力を身に付けた生徒を育て、変化の激しい社会に主体的に生きる逞しい人材を育てる必要があります。熊高高校では、校訓で

ある「質実剛健」「文武両道」「自由と自治」や、熊高教育の柱としている「熊高三本の矢」の学業・部活動・学校行事全てに全力投球する伝統により、まさに厳しい社会を生き抜く厚みのある人間力を育てていると確信しております。また、来年度完成する進学型単位制、第二期のSSH事業でも、生徒諸君に生きて働く能力を育んでくれると確信しております。熊高百二十年余の伝統と、時代に合わせた熊高の教育課程が、生徒の進路希望実現にも繋がってくださることを期待しています。

熊高同窓会では、支部ごとの同窓会、OB親睦ゴルフ大会、熊高の森づくり活動等の活発な活動をなさられ、サークル活動の活発な支部もあり、文化祭ではその作品を発表していただきました。熊高同窓会の支えがあった熊高高校です。今後とも熊高を応援していただければと思います。

総会、講演会等は、熊高OB各氏の多彩な経験や、話題に驚かされるばかりでした。特に、活発なサークル活動で知られている清川支部長のさいたま支部総会では、山岸久雄氏の「南極の自然と人」の講演には感動いたしました。何千年も前の南極の水での、オンザロックはシュウとした泡だちで、とても神秘的な体験でした。鴻巣支部の懇親会では、さいたま支部のハーマニの演奏が披露され、馬橋支部長もハモって

いらっしゃいました。東京熊高会では再興三十周年を迎え、節目の年になりました。江利川会長のもと都内のホテルに百五十人もの同窓生が集い、盛大な式典を挙げていただきました。萩原支部長の羽生支部で、本年度すべての総会が終了しました。夏休みも過ぎ、九月の熊高文化祭では、昨年に続きさいたま支部のサークル活動の作品が出品され、書や水彩画、俳句、写真等、見事な作品が展示されました。中でも蝶の標本には初

めて見る蝶が多く、その美しさに圧倒されました。十月二十九日には、熊高森づくりの会が十周年を迎える予定です。植えられた木々も、江利川会長はじめ多くの同窓生の支援で、大きく成長したようです。これからも、熊高同窓会はPTA・先生・現役の諸君達と協力して、有意義な同窓会活動を展開してゆくと所存です。皆様のご支援をよろしくお願い致します。

定時制活動報告

定時制教頭 佐藤 康成



同窓生の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は定時制課程の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。昭和二十三年に開校した

定時制課程も平成二十九年で六十九周年を迎え、これまで四九八名の有為の卒業生を輩出してきました。平成三十年度は、埼玉県高等学校定時制通信制教育七十年記念の年にあたりますが、本校定時制も最古参として、本県の教育の発展に寄与していく所存です。現在、定時制課程には十五歳から四十九歳までの

幅広い年齢層の生徒が在籍しています。正社員やアルバイトなど、働き方は異なっていますが、多くの生徒が仕事をしながら学んでいる。生徒個々が抱える課題に対応するため、教職員一同、生徒理解に努め、社会生活を送るために必要な基礎的・基本的な知識や技術を確実に修得させるための指導を行っています。最

近では、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を展開するなどの工夫も広がっています。給食指導も本校教育の重要な一翼を担っています。栄養バランスに配慮し、味覚に訴える食事を生徒全員で摂ることは、個(孤食)に慣れた現代の子たちに、「食」の大切さを伝えます。また、埼玉県教育委員会による支援事業も充実し、スクールカウンセラー、学習サポーター、就職支援アドバイザーの派遣に加え、

今年度から「地域の多様な人材との連携による高校生自立支援事業」が始まりました。これは、深谷若者サポートステーションと連携し、個別面談指導やソーシャル・スキルトレーニング、社会体験学習を通して自立に必要な力を育成することを目的とし、本校でも生徒の実態に合った計画を立案・実施しています。次に、部活動等の活躍についてです。今年度は、ソフテニス部から団体戦の選手が選ばれ、八月に千葉

県白子町で開催された全国高等学校定時制通信制体育大会に出場しました。他の課外活動としては、十月にさいたま文学館で開催された第五十回埼玉県高等学校定時制通信制生活体験発表会に生徒一名が出席しました。定時制生徒諸君のさらなる活躍を期待しています。今後とも教職員一同、全力で教育活動に取り組んでまいります。引き続きのご支援のほど、よろしくお願い致します。



「熊高の森」10周年

新たな発展へ

熊高森づくりの会 10周年を振り返る

熊高森づくりの会
会長 江利川 毅
(高19回卒)

「熊高森づくりの会」は平成20年7月5日に発足しました。熊高OBの有志が「荒川流域に熊高の森を作ろう」と呼びかけ、熊高同窓会において同窓会事業の一つとして機関決定され、スタートすることになりました。熊高OBの埼玉県庁関係者や大澤芳夫長瀬町長(当時)(高5回卒)の格別のご尽力により、植樹の地は宝登山の中腹の一角と決まり、植樹活動が始まりました。

〈10回までの流れ〉
第一回目の植樹祭は、平成20年10月13日(祝日)、約500人が参加して盛大に行われました。八木橋宏純熊高森づくりの会会長(高13回卒)、特別にご参加いただいた上田清司埼玉県知事、高橋丘熊高高校校長に記念植樹をしていただきました。10年を経て、立派な木に育っています。

第二回の植樹祭には、熊高第8回卒の関口照生さんと女優の竹下景子さんと夫妻が参加され、記念植樹をしていただきました。竹下さんから「大きく育て、森へ、未来とのメッセージをいただきました。熊高の森づくりの会の目指すところをびたりと言いつけています。さすがだなと思います。」

平成23年1月8日に八木橋会長が急逝されました。八木橋さんは、熊高同窓会にとっても熊高地域にとつてもとても重要な方で、誠に残念でなりません。改めてご冥福をお祈りいたします。

熊高森づくりの会の活動は、その後も毎年秋に植樹・育樹活動を行っています。植樹の場所は、新たに2号地も追加され、計2・3ヘクタールになりました。愛称を募集し、1号地は「熊高紫雲の森」、2号地は「熊高さくら」の森と決まりました。また、竹下景子さんから福島県三春町の滝桜の苗木を寄贈していただき、第6回の育樹祭の時に、ご夫妻で植樹していただきました。有志の方々からも苗木を寄付していただいています。

この活動には初回から熊高在校生も参加しています。特に春山賢男校長先生には積極的に生徒の参加を呼び掛けていただき、生徒会、応援団、1年生の生徒が多数参加し、記念植樹を行っています。第10回は40名の登録がありましたが、雨で植樹ができなかったのが残念です。OBと現役が交流する同窓会活動という意味でもユニークな活動となっています。午後の懇親会の冒頭に、応援団の指揮による校歌斉唱があり、参加者全員が肩を組んで歌います。このような場での校歌の斉唱は格別のものがあります。若い人たちの参加によって、熊高森づくりの会の世代間連携も順調に行

われるのではないかと感じています。
午後の懇親会では、いしのしし肉のカレーライス、秩父食材たっぷりのなめこ汁、熊高OBの酒蔵製地酒などが提供され、参加者の旧交を温める場にもなっています。第10回の植樹育樹祭(平成29年10月29日)は、生憎の台風による雨のため、植樹は取り止め、懇親会だけ行いました。各地の同窓会支部から記念植樹の申し出があつて、植樹活動がより賑やかに行われる予定だっただけに、とても残念でなりません。そんな状況でも122人が懇親会に出席していただき、熊高森づくりの会が同窓会活動として定着してきたと感じました。

〈森づくりの陰の功労者〉
この会が続いてきた背景には、多くの人の陰ながらの努力があります。
大きな存在は熊高OBの埼玉県庁人脈です。元農林部長の杉田勝彦さん(高19回卒)を筆頭に、県庁OBや現役が、事務局として事前準備や植樹地区の下草刈りを行っています。下草刈りには、県庁OB以外の有志にも参加していただいています。このような作業をしていただかなかったら、植樹の多くは枯れていただけないかと思ひます。埼玉県農林公社等にも協力をお願いしています。これも県庁人脈のお蔭です。心から御礼申し上げます。

また、長瀬町長はじめ地元の方々に温かいご協力をいただいています。大澤芳夫前町長、大澤タキ江町長にはいつもご来賓としてご参加いただき、懇親会会場の有隣倶楽部、懇親会の食材の提供者、長瀬町シルバークセンターによる植樹地の草刈り、様々な方から様々なご支援をいただいています。この場を借りて多くの皆様に御礼申し上げます。

第10回の懇親会の冒頭で、お支えいただいた多くの方々や大口寄付を寄せていただいた方々に感謝状を贈呈しました。末永いお付き合いをようしくお願いいたします。

熊高森づくりの活動は、まず現在の紫雲の森、さくらの森を充実させていくことが目標です。ゆくゆくはその拡大を考えていくことになるでしょう。

活動を継続充実していくためには、財政基盤をしっかりとさせる必要があります。この会の運営は、基本的に、会員の通信費1000円、新入会員の入会金、会員に任意で納めていただいている随時会費(随時会費を納めた方は通信費を納める必要はありません)で運営されています。森づくりの会の会員は1000名を超えましたが、通信費を修めていただいている人が会員の1割、随時会費を納めている人が1割という状況です。修めたいいただいている方々に感謝申し上げますとともに、納めていただけない方には積極的なご協力をお願いします。

数人の有志から大口寄付をいただいています。大口寄付は別会計で管理し、熊高の森の敷地内の足場の整備や排水溝の整備など、特

別の支出に充てるようにしています。
晴れた日に宝登山に登って、熊高の森と書かれた大きな看板のある辺りから眺めると、一面の若木と長瀬の美しい景色が広がっています。来年の春には、二号地(熊高さくらの森)の桜がかなり咲くのではないかと思います。同窓会の皆さん、熊高森づくりの会の事業に参加して、是非この楽しみを共有してください。また、機会を作って、ご家族で、宝登山中腹の熊高の森を見ていただきたいと思います。

◇「熊高の森」
発足時の思い出
島野 直(高7回卒)
全国里山の森林が長年放置され荒廃の進む状況を阻止し、地球温暖化防止等森林環境改善を官民一体となって取り組む事業が始まり、埼玉県は他県に先駆けこの事業を支援する為「彩の国みどりの基金」を創設した。すでに事業に関心を持った熊高OB有志グループの一つ長瀬町の山々を熟知した野沢和雄氏(高18回卒)と長瀬町町長大澤芳夫氏(高3回卒)を中心に町民と一緒に「熊高の森づくり構想」用地選定に着手していた。

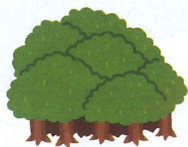
秩父農勝地宝登山の一角に確保出来る見通しが立ち急速に機運が高まった。頂度都合良く農林部長に杉田勝彦氏(高19回卒)、課長に渡辺利夫氏(高20回卒)、松本淳一氏(高24回卒)三名の管理職が居り、熊高OB県議も8名在職して居り、(県議会最大学閥)であり、これを好機ととらえ植栽し、山の美化促進、地球環境改善に貢献する社会事業に参加する事は伝統校熊高に相応しいと確信し、関係者一致団結し熊高の森づくりに協力する態勢が整った。早速話し合いの場が持たれた。一、熊高の森用地は宝登山の一角と決り長瀬は熊高40km走道のゴール地であり交通便利も良く、我々同窓が集い親睦を深め旧交を温めあう最適な場所。一、森の維持管理は永年にわたり必要となる為県農林部熊高OB職員が中心となり全面協力し世話する事で了解した。一、財源の確保。当時は100周年事業後でリーマンショックの景気低迷が続く多額の寄附をお願いするのは困難であり熊高OB県職員を中心に同窓会有志に頼る他なく一人二万円で会員募集を行う事とした。一、同窓会と熊高の森の連携は同窓会あつての熊高の森であり、同窓会の認知無しでスタート台に立つ事は出来ない。幸い森健会長(高3回卒)長野順一(高7回卒)事務局岡氏の御理解ある御配慮により総会に於て同窓会事業の一つに位置づけると決定され、晴れて平成20年7月6日設立発起人会が開催され初代会長に故八木橋宏純氏(高13回卒)、副会長に武田茂夫氏(高10回卒)、藤間憲一氏(高16回卒)、江利川毅氏(高18回卒)以上三氏が就任され、正式に熊高の森づくりの会の活動が開始された。以来10年を経過。同窓会長も森健氏(高3回卒)から染谷政示氏(高18回卒)に、熊高の森会長も故八木橋宏純氏(高13回卒)から江利川毅氏(高18回卒)に変わり、熊高の森も「紫雲の森」桜の森と命名され個性豊かな整備が進みつつある。近年会員皆様の心温まる御理解ある寄附金も徐々に増加し、会員数も一千人を超え、年会費も予算計上できる安定した運営になりつつあり大変喜ばしい事であり、今日を大過無く迎える事が出来たのは、発足以来、地道に熊高の森づくりに地味な努力を重ねて来た熊高OB県職員を中核とする多勢のスタッフと歴史と伝統に培われた熊高同窓会ならではの適材適所、はばひろい分野に展開する立派な人材のご尽力の賜物であり貴重な絆に心より感謝申し上げます。同窓会と熊高の森は共栄共存であり今後も末永く、共に発展される事を祈念いたします。



県知事 上田清司氏の植樹

森づくり

特別寄稿



十年の歩み。準備に活躍する
OB、思いを寄せるOB諸兄千
余名が支える「十周年」である
が、各々の立場から次の方達に
寄稿をいただいた。

◇地図に載る「熊高の
森」づくりを目指して
高31回卒 蜂須良浩

今から九年前の平成十七
年七月五日「熊高森づくり
の会」が発足し、長瀬町宝
登山中腹の面積二・三ヘク
タールの東向き斜面で植
樹・育樹活動を始めました。

用地は一号地熊高紫雲の森
一・四四ヘクタールと二号
地熊高さくら森〇・八六
ヘクタールに分かれていま
す。

会は、校歌にうたわれた
荒川の水源の地に悠久の森
づくりを行うことにより、
熊高に学んだ卒業生、在校
生など多くの人たちが集
い、交流を図るとともに、
地球環境の保全や水源涵養
等に寄与することを目的と
しています。

会長の江利川毅さん（高
18回卒）を中心に千名を超
える会員により、これまで
に、熊高のシンボルツリー
であるクスギをはじめ、モ
ミジ、ツツジ、桜など

シシ肉入りカレーが定番と
なっています。この育樹
祭・懇親会を毎年恒例の同
級会として先輩たちも
いらっしやいます。

この他に、埼玉県農林公
社と長瀬町シルバー人材セ
ンターの皆さんに下刈り作
業を実施していただいてい
ます。

「熊高の森」づくりをこ
れからも末永く活発にして
いくためには、多くの方々
の汗と力が必要で、現会
員が千名を超えているとい
え、創立百二十周年を迎
えた卒業生に対してはわ
ずかな数でしかないと思わ
れます。

これまでは、OB会各支
部総会で加入のお願いをし
たり、個々の会員に繋がり
のあった山岳部OB会や医
師の方々へ育樹祭・懇親会
への参加を訴えたりしてき
ました。しかし、まだまだ
私たちの声が届いていない
なあと感じています。

本同窓会だよりがお手元
に届くころには、今年度の
育樹祭は終了しています
が、是非地図に載る「熊高
の森」づくりを目指して一
人でも多くの同窓生の皆さ
んに会員になっていただき
たいと願っています。

「熊高森づくりの会」入会
ご希望の方は、同窓会事務
局048-5288-2333
へご連絡をお願いします。

十月二十九日（日）第十
回育樹祭。一号地・二号地
での植樹や在校生による入
学記念植樹、同窓会支部単
位の記念植樹を行います。
また、長瀬有隣倶楽部にお
いて懇親会も併せて開催
し、功労者表彰や応援団の
演奏による校歌斉唱・秩父
屋台囃子などのイベントも
実施する予定です。懇親会
は、OBの酒蔵の酒、地元
食材によるなめこ汁、イノ

くなってきました。

ここに至るには、諸先輩
方の情熱がありました。

私はその情熱に打たれ、
ほんのちよとだけお手伝
いをさせていただいていま
す。

こんなことをしているの
かと言いますと...

【四月】そろそろ会費集
めをしないと。多額の会費
を納めてくださる先輩もい
らっしゃるが、意外と貧乏
所帯。実は私が通帳を持っ
ています。ゴルフデン
ウィークは会費集めのため
のお手紙の発送。九百通を
超える印刷と封入は結構大
変です。えらい先輩たちと
せつせと作業。でも、結構
楽しいものです。作業は地
味だけど、みんなで一緒に
やってると連帯意識が強ま
ります。

【夏】江利川会長を交え
て暑気払い。今年は会長の
叙勲お祝いであつと盛大
に。

【九月】そろそろ森の草
刈りをしないと。農林公社
に草刈りの委託をしている
とはいえ、育樹祭に備えて
きれいにしないと。また暑
いので、大汗をかく素晴ら
しい作業です。蜂に注意。
（去年刺されてしまった先
輩がいます。大事には至り
ませんでしたが。）爽快で
すよ。（ちよと顔が引き
ついています。）

【十月】いよいよ育樹祭。
熊高現役生も交えて盛大に
行います。熊高の森は斜面
が急なので足元注意です。
下草刈り、植樹を行った後
は、豪華宴会場の有隣倶楽
部で懇親会です。OBの酒
蔵の酒、イノシシ肉カレー、
なめこ汁...定番ですが、こ
れが激うまっ！是非ご賞味

あれ！校歌を熱唱して盛大
に幕を閉じるのです。この
集まりを同窓会の定例会と
している先輩たちもいま
す。そうそう、スタッフは
ジャンパーを羽織っていま
すが、これが汗で濡れちゃ
います。回収してきれいに
して干さない。

【夏のあと】盛大な夏の
後は、支払いです。宴会、
ロープウェイ、看板、ホー
ムページ、草刈り等々、結
構な金額です。皆様の多大
なる寄付（会費納入）をお
待ちしています。

【この会に参加して】
私、実はあまり乗り気では
なくて何となく出席してい
たんです。でも参加してい
るうちにいつの間にか事務
局に名を連ね、参加する
のが当たり前になってしま
いました。

とは言っても大した貢献
はしてなくて恥ずかしい
限りですが。

皆様も、あまり大上段に
構えることなく、お気軽に
できる範囲で参加してみ
てください。きっと、何かあ
る（はず）。環境保全なん
て目標はさておき、熊高OB
が楽しむ会にしていきま
しょう。

そう、唐突ですが、熊高
の森は「ナウい」んです。
（去年刺されてしまった先
輩がいます。大事には至り
ませんでしたが。）爽快で
すよ。（ちよと顔が引き
ついています。）

◇熊高森づくりの会に
ついてひとこと
高7回卒 富田哲夫

熊高森づくりの会々長、
江利川毅様より、第10回熊
高の森育樹祭のご案内をい
ただいた。この内容は10周
年の記念式典の紹介と、感
謝状の贈呈式云々であつ
た。ご丁寧な心温まる案内
状に感激した。また8月に



撮影 岩田省三（高第9回卒）

熊高同窓会事務局の長野順
一氏より「同窓会だより」
原稿の募集のご案内を受け
た。良い機会であるため「熊
高森づくりの会について」
一筆したためる。私は昭和
30年、高7回卒業生で、新潟
大学（医）を卒業し、新大
の産婦人科教室に入局し
た。長年勤めた後、県立新
発田病院に転出。昭和56年新
発田市駅前開業、現在は
長男が院長、私は理事長と
いう名ばかりの仕事をして
いる。

「故里は遠くにありて思う
もの……」80才ともなると、
過去のことを頻々と回想さ
れる。秩父線皆野駅より北
へ4キロの大田（現在秩父
市大田）の一農家に生まれ、
父が出征中は特に家業の手
伝いをした。当時学区制が
あり熊谷市の某氏の所に養
子縁組をした。通学は自宅
より往復三時間。電車の都



合で遅刻したことは有った
が、欠席は無い。健康が取
り柄だった。卒業後は大分
県田市の叔父のもとに行
き、商家の後継者になるよ
う教育された。しかし、幼
少時より将来は医師になる
と心に決めていたため、商
人を断念して帰省した。そ
して受験に専念した。
……。

秩父線の長瀬は色々と思
い出がある。中学の頃、長
瀬自然博物館で各種展覧会
があった。書道展には自信
があり、何回も出展した。
秩父各地でつた化石を集
めて展示した。入賞という
記憶がある。秩父古生層
云々という言葉が思い出さ
れる。また長瀬の岩たたみ
と川面・宝登山神社のロー
プウェイ・宝登山山頂より
の展望には強い印象があ
る。3年前に帰省したとき、
妻と登頂した。このとき熊

中の第三回目の、協力を考
えている。次に大切なこと
は植林後の森林の管理であ
る。最近新聞報道でよくみ
るが、国が管理する森林も
人材不足で放置される傾向
にある。私も小さいころに
祖父より山林の管理につ
いて良く習い、我ながら色々
と協力した。針葉樹下枝の
切除、下草の除去。落葉樹
は小枝の切除、下草の除去
が必要。大きく成長するま
では、本当に管理が大切で
す。立派な熊高の森の完成
には並々ならぬ努力が必要
です。私は遠い所におり、
高令となり労働での協力は
不可能です。申し訳ありま
せんが、皆様のご協力・ご
力をお願い致します。

機会をみて熊高の森の発
育状況を拝見させていただ
きます。

宝登山山頂よりみた両神
山の絵画をながめつつペン
を置く。：29・9・25記

◇行田支部
第十三回
定期総会の報告

支部長 小川貢三郎
(高19回卒)

五月二十七日(土)、行田市のアイトピアにて四十八名の出席で開催。総会には御来賓として熊高同窓会長松谷政司様をはじめ、羽生支部長萩原正史様ほか役員の皆様、熊高同窓会事務局局長野澤一様にお越しいただきました。

小林友明代表幹事の司会で逝去会員に対する黙祷の後、寺崎悦弘氏の指揮により熊高校歌を全員で斉唱。次いで小川貢三郎支部長の挨拶の中で、本年四月に文化庁から埼玉県で初めて日本遺産として認定された「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」と秋にテレビドラマ化される池井戸潤氏著「陸王」のことが紹介されました。

来賓として新入会員の紹介の後、支部長が議事を進行。高橋秀男事務局長の事業報告、小菅恵一会計幹事の会計報告、江森暉雄監事の監査報告が終了。高橋事務局長の新年度事業計画、予算案も無事承認されました。

講演会では、高10回卒で元台湾日立金属社長岡安員也氏に「永久磁石とそのマジック」と題して御講演をいただきました。磁石が歴史的に果たした役割やGDPをも左右する戦略物資としての磁石など、大変興味

深い内容でした。

会場を移しての懇親会では、春田盛男幹事の司会で支部長挨拶の後、行田市長工藤正司様、県議会議員鈴木聖二様、羽生支部長萩原正史様から御祝辞をいただきました。須藤隆常任顧問の乾杯でしばし歓談となりました。その後、寺崎氏の指揮による恒例の校歌斉唱と渡邊栄一顧問の中絶めで和氣満々のうちに閉会となりました。

◇さいたま支部
母校文化祭

「熊高祭」への参加
事務局 小喜武文
(高16回卒)

9月9日・10日に開催された「熊高祭」に、同窓会さいたま支部として作品等展示により参加した。当支部では十部門の同好会があり夫々活発に活動していることから、作品や活動の対外的発表と現役高校生との交流を目的として昨年初めて参加し、本年は二度目の参加となった。

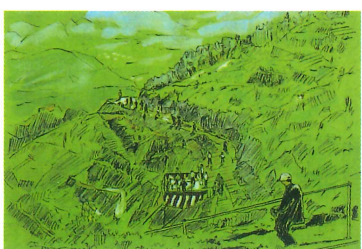
展示内容は、書道作品17点、俳句短冊13点、スケッチ作品18点、写真作品10点、ウォーキング写真、ハーモニカ写真、英会話写真、ハイクイック写真、蝶標本37箱であった。昨年よりも参加同好会が増えた上に、カラー写真(写真同好会)が加わったため大変華やかな展示となった。特筆すべきはスケッチ作品のうち6点は松本珍男子先生(高5回卒)自らが「熊高の森」第一回記念植樹祭の風景をスケッチした作品で、今年が熊高の森十周年にあたることから記念すべき展示となり、多くの関心を集めた。



来場者人数は443名で前年比105名増、内訳は在校生111名(40)、他校生57名(10)、教員15名(15)、OB68名(10)、その他(中学生含む)192名(10)となった。特に最終日の終了間際には、ごったがえす程の来場者で会場が一杯となる盛況であった。

高を目指す中学生など若者たちの来場が目立ち、後輩との交流という観点からも大成功であったと思われる。

松本 珍男子 作
(高5回卒)



その他の
支部活動

◇本庄支部会

五月二十日(土)
支部総会、講演会
「埼玉ランドホテル本庄」

〔講演会〕

○講師 吉田・宏哲氏(高5回卒 有勝寺住職)

◇北本支部

五月二十一日(日)
支部総会、講演会
「北本市文化センター」

〔講演会〕

○講師 大島博明氏(高22回卒、ものつくり大学名誉教授)

参加者 三十七名

◇熊谷支部

六月十一日(日)
支部総会、講演会
「くぬぎ会館」

〔講演会〕

○創立百二十周年に寄す漢詩について

○講師 渡邊修一郎(高7回卒、元浦和高校長他高校教諭)

参加者 四十名

◇比企支部

六月十一日(日)
支部総会、講演会

◇鴻巣支部

六月二十五日(日)
支部総会、講演会
鴻巣市民センター

〔講演会〕

○須田剋太の生涯と鴻巣

○講師 渡辺恭伸(高21回卒)

参加者四十名

◇東京熊高会

七月七日(金)

熊高会総会、講演会
※再興三十周年記念「メトロポリタンエドモンド」

〔講演会〕

○四度目の甲子園を夢見て

○講師 江頭靖二(高35回卒)

〔ミニコンサート〕

○演奏者 原田勇雅(高52回卒、声楽家)

参加者百十名

◇羽生支部

七月二十九日(土)

支部総会、講演会
「ワークヒルズ羽生」

〔講演会〕

○「地方再生への取り組み」

○講師 富田能成(高36回卒、横瀬町長)

参加者四十一名

第37回 熊高OB親睦ゴルフ大会
会長 高27回卒 内田信之

本年も恒例のOB親睦ゴルフ大会が、好天のもと5月25日、熊谷ゴルフクラブにて148人の参加をいただき盛大に開催されました。この大会は昭和56年に第一回を開催してから本年で37回を数えますが、ゴルフには絶好の風薫る5月の新緑のシーズンに開催することもあり本年もたくさんの参加者があり、また皆様の友情に支えられ楽しく本年の大会を開催できました。プレイ終了後には成績発表・表彰式をにぎやかに行いました。まず、応援団OBのリードにより全員で校歌を斉唱し、また、出席者からのチャリティ金14万を熊高高校に寄付いたしました。

出席者、大満足のうちに第37回ゴルフコンペは終了し、来年の大会での再会を約して散会いたしました。成績は以下の通りです。

日時	平成29年5月25日(木)
会場	熊谷ゴルフクラブ
参加者	148人
天気	快晴
個人の部	
1位	加藤 賢 G
2位	倉茂 功 N
3位	野口 佳郎 86
4位	小暮 武文 85
5位	内田 徹 84
グロスの部	
1位	新井 利幸 86
2位	小鮎 成忠 77
3位	橋本 昌教 81
第38回大会は平成30年5	

中学四十五回生
卒寿記念同窓会

私共中学四十五回生は卒寿を迎え最後と思われる同窓会を、去る十月二十四日大宮の「清水園」にて開催いたしました。超高齢者と

月17日(木)に熊谷ゴルフクラブにて開催を予定しておりましたが、1人での参加または4人あるいはグループでの参加も歓迎いたします。

て集まった者僅かに七名でしたが、昔話を交え懐かしいひとときをすごしました。これから先の再会は叶わないだろうと思いつつも、別れを惜しみつつ懐旧の時間を過ごした次第です。



熊中45回生 卒寿記念同窓会 H.28.10.24

育樹祭点描

事務局代表 杉田勝彦（高19回卒）
松本淳一（高24回卒）

熊高の森育樹祭が第10回を迎える10月29日は、悪天候のため、計画していた同窓会各支部の記念植樹が叶わず、懇親会のみ開催となりました。それでも、懇親会には、総勢百二十二人の参加があり、熊高の底力を感じさせる盛り上がりを見せました。

特に今回は、長年にわたり、活動を支えていただいた方々に、江利川毅会長から感謝状を贈呈させていただきました。

高額の寄附をされた中島卓也氏（高17回卒）は「育樹祭には今回、初めて参加しました。これは多くの方が出席されて感動しました。これからは、私も森づくり活動に精一杯頑張りたい」とと挨拶されました。

地酒を提供された権田酒造の権田清志氏（高30回卒）は「当社は荒川の伏流水で酒を造っているのでも上流での森づくりはとても大切。」であることを強調されました。

活動の打合せ場所等を提供された御野澤屋の野澤和雄氏（高18回卒）は「自宅が熊高の森に最も近いので、これからも役に立てるようにしていきたい。」と話されました。

秩父鉄道線の赤岩一男氏（高26回卒）は「鉄道ファンに根強い人気がある電車のヘッドマークの設置など、会社として熊高の森を盛り上げていきたい。」と宣言されました。

このほか、高額の寄附をされた富田哲夫氏（高7回卒）

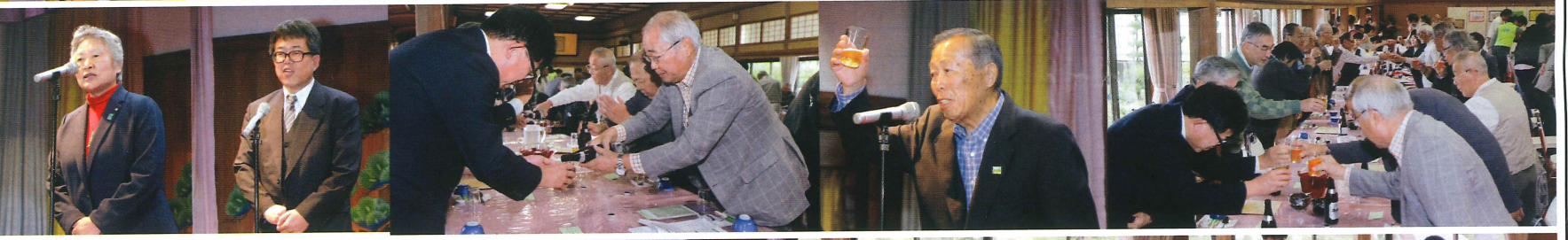
卒）チチバナメコの無償提供を続けている御角仲林業の山中敬久氏（高19回卒）、イノシシの肉入りカレーやナメコ汁の容器の無償提供を続けて頂いている御オリエイの鶴養武宏氏（高44回卒）、地酒を提供された滝澤酒造の滝澤常昭氏（高13回卒）の皆様には、別途感謝状を贈呈させていただきました。

懇親会では、長瀬町の大澤タキ江町長が「NHKのプラタモリや秋篠宮眞子様がフィアンセと訪れた地として長瀬町は脚光を浴びています。これからも、この長瀬町に、熊高の森に足を運んでいただきたい。」と歓迎の挨拶をされました。

今年の懇親会は、第10回ということで、いくつかの試みがありました。

まず、秩父屋台囃子も入り、賑やかに盛り上げていただきました。また、よしもとのお笑い芸人「髭賢にこだわる」甲斐田良太氏（高57回卒）は、硬式野球部が練習後に水しか出ない、柔道部のシャワーを無断で使用したときの暖かみを感じさせるエピソードを披露し、会場の爆笑を誘っていました。さらには、参加記念品として、障害者授産施設で作製した、熊高の森のロゴ入り木製コースターを配布するともに、実費販売も行いました。

こうして、第10回熊高の森育樹祭も、熊高で学んだOBと現役の生徒の皆さんとの交流を通じて、絆を確かめ合う場になりました。



写真提供：野沢隆弘氏（高47回卒）

当選おめでとう！

「モリモリプレス」号外より

二〇一七年十月二十二日衆議院議員選挙のご報告

＊比当 八六〇〇七票をいただき当選できました！
希望の党衆議院議員
森田としかず

埼玉十二区熊谷市（旧江南北部）・行田市・羽生市・加須市・旧川里町（鴻巣市）

ここまで五万軒のお宅を訪問して、一、〇〇〇回の集會を開いて皆様と対話を重ねてまいりました。その中で、皆様の暮らしをもっとよくしたい、皆様のためにしっかりと仕事したいと

森田としかず君（高45回卒）
いう想いが強くなってまいりました。

一部の大企業や株主だけが潤う社会から、皆様一人ひとりの暮らしがよくなるよう努めてまいりたいと思います。そして、何より、この国の将来を担う子どもたちのために禍根を残してはいけません。

私森田としかずはこの選挙で約束したことを忠実に実行してまいります。

選挙は終わりましたが、国会議員として皆様に恩返しするためのスタートラインに立つことができました。これから国会でしっかりと仕事をしてまいります！
森田としかず